

# 農村幼児の保育(二)

根岸草笛

## (II) 農村幼児の特色

曰 次

- 一、幼児の憧れの職業について
- 二、幼児の興味について
- 三、食物の好き嫌いについて
- 四、幼児の恐怖心について

一、幼児の憧れの職業について

次に農村幼児の特質を掘り下げる見  
る手段として、先ず最初に「大きくな  
つたら何になりたいの」という質問を  
してその答えを収録して見ましたと  
ころ第十二表のような結果を得ました。  
一昨年頃まで「あなたは何になりました。  
あなたは何になりました。」

「の」と聞いても鮮明した答のできる  
児が少ないことを、いかにも哀れに  
感じさせられていましたが、この頃の  
子供達は大小の差はあっても兎に角何  
か女性らしい夢を豊富に持つてゐる  
にひきかえ、農村の方は男女共に非常  
にその領域が狭められて、学校の先生  
や村長さん、それから役場の小使さん  
といふように、ほとんど村内の日常生活  
の中で見聞できる職業に限られてい  
るのは可憐です。又、男女を通じて最  
高を示している、大きくなつても家に

児のかい抱いでいる夢を比較していく  
と、都市の男児は、予備隊、飛行機  
の操縦手、船長、野球の選手、医者と  
いうような近代的な職業に自由自在の

憧れを持ち、又女児もお菓子屋、踊り  
子、バスガール、婦警、ピアニスト、  
スカート屋と申しますような甘く華や

かかな女性らしい夢を豊富に持つてゐる

居てお父つちやん兄んちや、或いはよ

した。

めさや、おつかさになるといふ子は、大体長男や長女に多いといふことも、特筆すべきであると思ひますが、これ

は多分農家の両親達はこの様に幼い頃から兄や姉は当然その家を継いで、百姓を業とさせるために、折りにふれて

はいきかせて いる故であります。しかし、この様な答をして いる幼児が男児の全体の約八分の三、女児が全体の約二分の一あります。そして都市でもブ

リキヤ、靴屋、籠屋といふような特定な地味な職業に希望を持つて いる僅かな者は、たいてい家業をつぐように両親から教育されて いる様子ですが、農村の様に決定的な考え方をする幼児は少ししかありません。ところが農村では

は煉瓦やき、炭やき、たよさまというような答えの仕方が、如何にも信じて疑わずといふような態度の者の多かつたことは、よろづにあまり鮮明した言葉づかいをしない農村の幼児としては、意外の現象としておどろかされま

第十二表

都市の幼児の憧れている職業	
男(二五名)	女(二五名)
予備隊	お菓子屋
飛行機の操縦手	(日本舞踊)三
船長	踊り子
機関手	(バレエ)二
野球の選手	お遊戯
二	バスガール
自動車運転手	パン屋
一	下駄屋
巡回	婦人警官
ラジオ屋	魚屋
サンタクロース	パン屋
セメント屋	ピアニスト
靴屋	自動車の運転手
医者	張りもの屋
籠屋	洗濯屋
ブリキ屋	お掃除屋
一	スカート屋
一	(洋裁師)
一	嫁さん
一	チンドン屋
看護婦	たよさま(神官)

農村の幼児の憧れている職業

男(二五名)	女(二五名)
おとつちや(百姓)五	よめさ
あんちや(同)	おつかさ
先生	字を習う
村長さん	鉛筆事
予備隊	反物屋
役場つとめ	あんこ屋
役場の小使さん	キンデイ屋
郵便配達	看護婦
機関手	工場へ行く
駕員	(女工)
煉瓦やき	たよさま
炭やき	たよさま(神官)
一	一

## II、幼児の興味について

第十三表は幼児の最も好きなもの、即ち興味の調査です。此所でも都市の児童は映画、紙芝居、ガスカー、飛行機と近代の文化材に情熱を持ち、又音楽リズム、絵画、製作、繪本といふように広く情熱を燃やしておりますが、

映画が特に多かつたのは、ベンビや白雪姫のようないい映画を、つけて見る機会に恵まれたことにも依りましょ

う。それまでは紙芝居が第一でした。それと対比して紙芝居が一番好きらしいのは農村でもおなじですが、お祭り益おどり、おたやといった年中行事が非常によろこばれています。

それにつづいて駄つり、どちらようつ

り、蟹つり、雑魚おさえ、いなごとり

というような自然の生き物相手の遊びが多いのも、農村児童の表れとして面白いと思いますが、豚の子、チャボ、ちらがえり、チンドン屋などといふ答えを真面目なお顔でする農村の児童のあ

どけなさも又捨てがたいものでした。

それから蓄音機が好きと答える児童が都市農村共に、相当ありますのに、ラジオが好きという者がないのか解りませんが、おそらくこれはラジオのきかせ方が巧くないのか、それとも児童の時間その他の番組に何か欠けているものがあるかのどちらかでしよう。研

究の余地があります。

### 第十三表

幼児の最も面白いもの		農	市	都
映画(特にベンビ白雪姫など)	三二	紙芝居	一	一
お祭り	一一	益おどり	一一	一
飛行機	六	著音機	一一	一
音楽	五	蟹つり	七	一
リズム	四	おたや(報恩説)	九	一
粘土	三	おさえ	八	一
ガスカー	二	いなご	七	一
絵本	一一	とり	六	一
製作	一一	蟹つり	五	一
野球	一一	おとぎばなし	四	一
花火	一一	あけびとり	三	一
ブランコ	一一	あけび	二	一
線香花火	一一	餅	一	一
バーチ	一一	ぱた餅	一	一
バチシコ	一一	ぼた餅	一	一

### III、食物の好嫌について

第十四表と第十五表は食物に対する好嫌いの調査です。

好きなものは都市農村を通じて甘いお菓子類のようですが、都市はドウナツとチョコレートなどで、農村の横綱は餅です。この餅も詳しくききますとぼた餅、あん餅、きなこ餅、豆餅、ごま餅、つばき餅、笹餅、かき餅、わらんち餅となかなか博学多識の子が大勢居つて、ていねいに教えてくれましたので恐れ入りました。ぼた餅、あん餅の類は云わざもがな、椿餅、笹餅というのは、その木の葉つばで包むからそう呼ぶのですが、わらんち餅とはまさかわらぢで包むわけもあるまいにと、頭

劇あそび	二	絵本	一
サーカス	一	チンドン屋	一
ヘリコプター	一	一	一
ニュースカイ	一	一	一
船つり	一	一	一

を傾けて見せましたら、わらぢほどの大きさのある陣円型のつきたてのお餅を、わらんち餅となん呼び侍る由です。

嫌いなものはどちらも葱が筆頭で、

都市では肝油がそれにつき、芋汁人蔘などですが、農村で豆腐と肉のきらいな幼児の多いのが目立ちます。喰べなれぬ肉は当然としても、豆腐は何が原因でしようか解りません。誰かの発言を模倣したとも考えられますが、解りません。

第十四表

都	市	農	村
最も好きなもの（食物）			
ドーナツ	二七	餅	
チヨコレート	九	キヤラメル	一七
キヤラメル	八	餅	一
チウインガム	七	キヤラメル	一三
パン	六	いも	一二
まくわ	五	黒砂糖	一
柿	七	アイス	七
キンデー	九	キヤンデー	七

第十五表  
最も嫌いなもの（特に食物について）

都	市	農	村
葱類	二九	肝油	
葱汁	二八	人蔘	
人蔘	五	胡しよう	
大根おろし	七	じやが芋	
納豆	五	納豆	
肉	五	せり	
くぢらの肉	五	魚	
納豆	九	豆腐	
大根おろし	九	人蔘	
納豆	七	葱	
なます	一	葱	
ごまよどし	一	人蔘	
せりのお汁	一	胡しよう	

#### 四、幼児の恐怖心について

第十六表は怖いものの調査です。

都市の幼児が第一に火事が怖い、それから次が祇園祭りの時に廻つて来る

獅子舞いの獅子が怖いといつていますが、次の泥棒にせよ乞食にせよ、現実的に人間社会に存在しているものを、彼等彼女等自身の眼で認識しての上の恐怖感です。

お化けとか鬼とか申しますようを架空のものを怕れている率は比較的少なく、狂犬とか提灯あんとか申しますような珍らしいことを申す子も、何か絵本か病人かで実感として持つている恐怖のようです。ところが農村の幼児が断然恐れているものは、架空のお化

柿	かりんとう
梅干	いたつけ
梨	アイス
卵焼き	キンアンデー
くし柿	いも
あけび	蛇のやいたの
いちぢく	梅干

かぼちゃ	一
くり	一
くし柿	一
ぐみ	一
柿	一
うどん	一
じやが芋	一
さんま	一
やきもち	一

一一二二二二五

お汁	三
煮干	一
うどん	一
じやが芋	一
さんま	一
やきもち	一
きのこ	一
二二二	一
五	一

けにゆうれいに年貢の鬼です。

第十六表

お父うさん  
提灯あんこう  
牛

なると、山から年貢の鬼という大きな鬼が飛んで来て、不斷少しでも哭いたり暴れたりして、悪い子供をひつ搔つて山奥へ連れて行つて仕舞うといふ古くからの言い伝えなのです。お化けやゆうれいと同様に大人からい

うことを聞いてよい子になるために、わざと聞かせられて恐怖心を養成され、いる架空のものです。

ももんがあというのも山のお化けの一種類、むささびというのも鳥のお化けとして、きかされていて、やはり哭く子や云うことを聞かね子をとりに来るといいきかされていますから、恐れるのが当然ですが、おとつちや（父）やあんじよさま（尼僧）が怕いといふのは、いまどきの都市の幼児とくらべたら、なんと可哀いそなことでしょう。

以上「農村幼児の憧れしている職業」「興味」「食物のすきぎらい」「怕いも

都 市	農 村
火事	お化け
お獅子(祇園)	一九
泥棒	一七
乞喰	二二
鬼虎	年貢の鬼
狂犬	お化け
ゴリラ	お獅子
地震	おとつちや
煙狼	醫者どん
注射	あんじよさま (尼僧)
お蔵	ももんがあ (山のお化け)
赤痢	五
くぢら	七
トラック	八
一一一	九
一一一	五
一一一	四
一一一	三
一一一	二
一一一	一

の」などの調査に依り、農村幼児の特質の一部を捉えてみましたが、この外にもよく農村幼児は口をきかないとも云われます。

極く少數の肉身や近隣の人達に對しては決してそうではないのですが、知らない人に逢うとたにしのよう白い眼で睨らんだり、先祖代々からの敵に見付けられてもしたかのように逃げ出して仕舞う子供が沢山あります。

しかし、これはあながち農村の幼児のみの特色ではなくて、親達そのものがそうなのでして根本的な原因はむしろ親達の間にある狭くて排他的で強烈な部落感情の影響から生じたものです。部落感情といふのは同じ小さな村内でも又その中に小さく別れている同じ字内の人達だけが固く团结してい、不斷はお互に親しく行き来し、又、一朝事ある時には字全体の力であ

たのですが、その時には理窟や大義名分より先ず字や字の個人の利害関係が先きになります。

又、一度でもその字の約束や規りを破つたり義理を欠いたりしますと、村八分と云つて一切の公私の交際を絶たれひどい目にあわされますので、字の者以外とはめつたな交際もできぬのですが、原始的な社会にあつては財産の保護や種族保存のためにそうした感情が強調される必要があつたのでありました。その感情の名ごりが接触する人の範囲の非常に少ない農村の児童にく反映されていて、未知の人をおそれる結果口もようきげぬということになつて、馴れるまではなかなか心の扉を開いて話しあつてくれません。ですから保育所などで入園のはじめ頃には、部落の者同志でないと決して遊びませんし、ゲームをやらせますと自分の字の児児にだけ応援するのが常識です。

更に、農村の児児の愛情の表現法などにも一積独特な表現法があつて、予

備教育のない女学生が保育所へいきなり奉仕に行つて、指をかられたり、足の裏を舐められたりして閉口したといふようなお話をきいたことがあります。これはやはり言葉の表現が巧くゆかぬもどかしさと、母親に放り出されている佗びしさが輻輳して人懐しさが増されているためです。

しかし、一度馴れてくるとどうしてどうしてなかなか濃厚になる子もあり

ます。そしてその対象は人間関係のみではなく、家畜などにも表れて牛馬や豚の子、或いは兎やチャボなどにその満されぬ愛情をそいで、佗びしさを自ら慰めている子が沢山あります。又、母親の愛情に不足しない農閑期でも、都市の児児よりは一般に動物が好きで、緑園の天使が名馬ペイに示したような愛情や信頼を抱いていることは珍らしくありません。（未完）

### お茶の水女子大学附属幼稚園試案

## 幼児指導要録記入の手引

A5判五二頁定価三五円 送料八円

幼児指導要録の記入も各園それぞれの立場に於て御研究がなされていることと思われますが、ここにお茶の水女子大学附属幼稚園の試案として「幼児指導要録記入の手引」が出されました。幼児の生活の実際と評価の尺度について客観的な正しい觀察の手引として一つの指針となるものと信ぜられます。

東京都千代田区神田保町二ノ四

発行所

株式会社

フレーベル館

振替東京 一九六四〇番